

菊地三郎先生にとっての日中友好（1）

— 木刻運動をめぐって —

【サマリー】

堀 中 浩

今、新しい木刻運動がアジアで広がっている。1947年、菊地三郎先生が所長をつとめる中日文化研究所が主催して「中国新木刻展覧会」が東京の銀座三越で開催された。この展覧会は、日本と中国、さらには、アジア諸国の人々との友好に対してどのような役割を果たしたのか。当時をふりかえりつつ、考えてみた。